人との出会いが私を成長させる

大阪YMCA国際専門学校外国語専門課程
英米語学科国際ボランティアコース1年　安田（やすだ）　絵未（えみ）

私が大阪YMCA国際専門学校に入学してはや、一年が経ちます。振り返ると、今までで一番濃く、そして一番短い一年でした。

YMCAに入学して以来、様々なボランティア活動に参加できるチャンスがたくさんありました。以前から海外ボランティアにも興味があったのですが、昨年、ボランティア実習でタイを訪れることができました。

期待と不安でいっぱいだった私の目の前にあったのは現実という光と闇でした。なにもできないもどかしさ。貧困や人身売買など日本にいたらただテレビで見て聞くだけで、どこか他人事と感じていたことが、自分の目の前で起きていて、その現実を自分の体で感じ、そんな気がします。

海外へ行って、一番目についたのが自分の国、日本の問題でした。どの問題にもどこかで日本が関係している。タイに行って日本への見方が変わり、もっと日本について知ろうと思いました。そして、ハンセン病療養所の大島青松園・沖縄の米軍基地・日雇い労働者の問題など、日本の、見ようとしてもなかなか見えない問題に目を向けるようになりました。

ボランティア活動を通して学ぶことの中には、辛いこともあるけれど、それ以上に素敵なことがたくさんあります。それは〝人との繋がり〟。

YMCAでは地域から日本、海外まで幅広くのボランティア活動をすることができ、そしてたくさんの人々と出会うことができる。

人との出会いが私を成長させてくれる。私はそう思います。

私は将来、いろんな国と国、人と人との繋がりの輪を作る仕事がしたいと思っています。私にとってYMCAはその夢の第一歩です。

友達や先生、英語にボランティア。私の大好きなものがYMCAにはあります。

勉強とボランティアの両立は難しいと思っていたけれど、こうして楽しく自分の好きなことができているのは周りにいる友達や家族、先生たちの支えがあるからだと、とても感謝しています。私はYMCAが、学校が大好きです。私にとってYMCAはなくてはならない、そんな存在です。

思い出を大切にし、毎日を自分のペースでゆっくりと、だけどしっかり前を向いて歩いて行こうと思います。

表コミでのたくさんのみんなとの思い出、なにげない一日一日、泣いたことも笑ったことも全てが私の宝物です。本当にありがとうございました。

一日一日、全てが私の宝物

大阪YMCA国際専門学校高等課程
表現・コミュニケーション学科卒業生　井上（いのうえ）　由真（ゆま）

表コミに入学する前の私にとって〝不登校だったこと〟は一番のコンプレックスで、誰にも言いたくないことでした。しかし今は「不登校をしていたからこそ、今の私がいる」と思えるようになり、大切な思い出の1つになりました。そしてあんなに大嫌いだった〝不登校だった頃の自分〟を受け入れることができました。このことは、先生やボランティアさんや友達、そして表コミに関わる全ての人のおかげだと思います。

表コミで出会えた人たちはみんな、私をありのまま受け入れてくれました。「不登校だったことを話すと、みんな離れて行ってしまうのではないか」と不安に思っていた私に、人間関係を作る上でそんな事は関係ないんだ〟と思わせてくれたのも、みんなでした。こんなに素敵で心から大切だと思える人たちに出会え、すばらしい3年間を過ごすことができました。

学校に行かなくなった時、まさか自分が高校を卒業できる日がくるなんて、そして大学へ行くなんて想像もできませんでした。これからは表コミでのたくさんの経験や見てとても嬉しくなりました。この時みんなで一つのものを作る楽しさを感じ、またこの成功が他の活動に対する自信につながっています。

YMCAでの活動の面白いところは、様々な経験を持つ人に出会えること、普段の生活ではなかなか体験できないプログラムにも参加できることです。時にはプログラムに参加させてもらい、時にはプログラムを企画・運営するという2つの立場を経験できるからこそ、自分たちがプログラムをするときに周りから支えてくれるスタッフ・他のボランティアの方々・仲間のありがたさをさらに感じます。これからも、人との関わりを大切にし、様々なプログラムを行いたいと思います。

プログラムへの参加、企画・運営も

国際ユースボランティアリーダー　岡田（おかだ）　加奈子（かなこ）

私が大阪YMCAでの活動を始めて、約1年が経とうとしています。この1年を振り返ると、YMCAでも緊急募金活動を行いました。大きな被害を受けたスリランカのネゴンボYMCAから、その後のレポートが届きましたので掲載いたします。

スリランカ　ネゴンボYMCAからのレポート

インドネシア・スマトラ島沖地震災害その後

2004年12月26日にインドネシア・スマトラ島沖地震が発生し、YMCAでも緊急募金活動を行いました。大きな被害を受けたスリランカのネゴンボYMCAから、その後のレポートが届きましたので掲載いたします。

ネゴンボYMCA 津波被災地域の再建

スリランカ　ネゴンボYMCA
総主事　Roger Peiris

ネゴンボはスリランカの西部、Gampaha 地区に位置しています。人口が約15万人、面積が10・4平方キロメートルの港町です。民族・宗教は様々ですが、大多数は漁業を営むカトリック教徒です。ネゴンボの沿岸地帯の住民は漁業に従事し、生活水準は非常に低いものです。政府によって居住を禁じられている湾岸線に沿って、彼らの質素な住居があります。

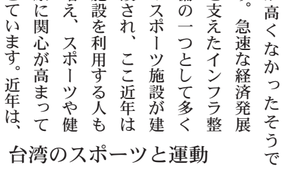
そこに住む子どもたちは、学校教育とはほとんど無縁で暮らしています。親は子どもたちが彼らと同じように漁業に従事するものと思っています。

2004年12月26日に津波が襲った時も、彼らはそのような環境で暮らしていました。

津波に対する知識を一切持ち合わせていなかった住民は、財産をすべて残したまま、命からがらカトリック教会に避難しました。

1450世帯がドン・ボスコーの教育施設と聖セバスチャン教会に避難しました。

640世帯が聖セバスチャン教会で避難生活を送っていました。カトリックの聖職者が被災者の支援を行っており、ネゴンボYMCAもその活動に参加しました。



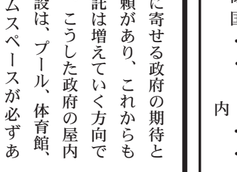
ネゴンボYMCAが行ったのは次の活動です。

1. 被災者に対する応急処置

住居を失った人々を安全な場所に誘導し、食料や飲料水、衣服などの基本的必需品を提供しました。ネゴンボYMCAからの40名のボランティアがこのプログラムに携わりました。

2. 清掃作業

被害を受けた家と破損している漁業道具はYMCAボランティアによって修理されました。スリランカ南部や東部では、特に津波の被害がひどく、海水で汚染された井戸の清掃や、病院の清掃、死者の埋葬などを行いました。



3. 青少年のプログラム

子どもたちにとって、この被災経験はトラウマにもなりえるものであり、メンタル・ヘルスに関して特別なケアを必要としました。私たちは子どもたちのために2つのキャンプを実施しました。

ネゴンボYMCAの青年部のメンバーによって行われたこのプログラムでは、子どもたちが楽しめるように、ゲームやレクリエーションのプログラムを行いました。

4. 住居の修理

一部損壊の家や再利用できる家など50軒が修理され、50世帯が比較的短い期間で自宅に戻ることができました。

5. 住居支援

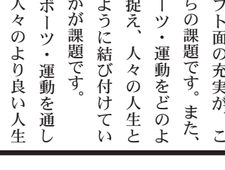
家が全壊し、避難キャンプで生活していた人々には生活道具を提供しました。これらの生活用品を自宅に持って帰ることも許可されました。

6. 資本提供

すべてを失った家族もありました。生活をする術を持たない彼らに、漁業道具を提供し、日常生活を再開できるよう援助しました。

ネゴンボでは干物作りで生計を立てている世帯が多く見られます。しかし、道具なども津波の影響を受けました。私たちは、被災者から情報を収集し、240世帯を支援しました。彼らが再建できるように、道具を提供し、ローンを組みました。今では、事業も軌道に乗り、自営できるようになっています。

7. 教育支援



子どもたちが引き続き教育を受けられるように、特別な奨学金制度を設け、授業が受けられるようにしました。このプログラムを通して120名の学生が高等教育を受けました。

他にも、津波で被害を受けた2校の学校に施設を提供し、ボランティアの教師を派遣しました。

8. 職業訓練

行き場のない子どもたちに、パソコンの知識と英語を学ぶ機会を提供し、必要な場合は奨学金を与えました。これらのプログラムで、60名の学生が英語のコースを受講し、80名の青年たちがパソコンのコースを受けました。

9. YMCA会員

上記のようなYMCAのプログラムに関わった人々は、そのニーズに応じて、YMCAの会員資格が取得できるようにしました。青年クラブや、青少年対象のクラブ、未就園児対象のクラブ、マイクロファイナンス、女性対象のエンパワメントのクラブです。

2004年12月の津波被災に対して、ネゴンボYMCAはこのような支援活動を行いました。

大阪YMCAは、1995年から内戦により被害を受けた子どもたちの安らぎや希望の創出、リーダーシップ養成および多民族の融合を目的としたキャンププログラムを、現地のスリランカYMCAと協働で実施してきました。2004年の災害発生後、津波被害にあった子どもたちを対象にしたキャンププログラムを行い、今までにスリランカ全土から参加した青少年は約700名で、その内YMCAスタッフとして40名、リーダーとして100名以上が活躍しています。大阪YMCAは今後も交流を通して支援を行っていきます。

国際リレーエッセイ ⑧

風の人、土の人

～台湾より～

菅（すが）　秀晃（ひであき）さん

台湾のスポーツと運動

人口2300万人の島国である台湾は、歴史、文化、気候も影響し、これまでスポーツや運動に対して一部の人しか関心が高くなかったそうです。急速な経済発展を支えたインフラ整備の一つとして多くのスポーツ施設が建設され、ここ近年は施設を利用する人も増え、スポーツや健康に関心が高まってきています。近年は、市内の河川敷を中心としたサイクリングコースの整備をはじめ、市民向けのスポーツセンターや運動公園も建設されました。

台北YMCAも、北投区運動センター、士林運動センター、洲美運動公園の3ヵ所の運営を政府から委託されています。これまでの世界的なYMCA活動から、YMCAに寄せる政府の期待と信頼があり、これからも委託は増えていく方向です。こうした政府の屋内施設は、プール、体育館、ジムスペースが必ずあり、どの施設も連日、来場者は800～1000名に及びます。台北市民の多くは、活動費として日本円に換算して、約1500～2000円（高齢者は半額）で、それらの政府の施設を様々な運動に利用できます。また、その多くの施設は、市民の住宅街やオフィス街にあり、気軽に足を運べて、市民が運動に触れる機会に繋がっています。その他にも、各小中学校のグラウンドやテニスコートなども、日本と同じように開放されています。

台湾は、全般的な競技スポーツはまだまだ途上国かもしれませんが、国民がスポーツや運動をすることへの働きかけは先進的であると感じます。課題は、多くあります。ハード面の充実から、スポーツ・運動に対する専門的な指導者の育成であるソフト面の充実が、これからの課題です。また、スポーツ・運動をどのように捉え、人々の人生とどのように結び付けていくのかが課題です。

スポーツ・運動を通して、人々のより良い人生のあり方を提唱してきたYMCAへの期待は大きいものがあります。これからも、一人ひとりにあったライフスタイルを作り上げる一助になりたいと思いますし、運動する喜びを台湾の人々に伝えていきたいと思います。

◆筆者紹介◆
菅　秀晃さん
大阪YMCAスタッフ。現在、台湾・台北YMCAに出向中。

◆◆プログラム報告◆◆

南YMCA ボランティアフェスタ報告

3月20日午後1時より4時まで、南YMCAにて「ボランティアフェスタ2009」が開催されました（主催／メンバーシップ委員会）。今年は、主に南YMCAの会員、ボランティア、教職員を対象に実施しましたが、総勢28名の方が参加されました。

第一部では、まず、いずれ起こるとされる大地震に対処する知識を広げるために「木造建築物の耐震対策と安全」について、市川博三（いちかわひろみ）さん（NPO「木造耐震システム研究機構」代表）から木造家屋でできる耐震対策・対処について講義を受けました。

その後、「火災・防災の知識」や心構えについて西野昭教（にしのあきのり）さん（堺YMCAリーダーOB、堺消防署勤務）にご自身の体験を基にお話いただきました。ともに日頃なかなか聞くことができない具体的な内容で興味深くお話を伺いました。

第二部では、参加者が分団討議を行い、今後YMCAで震災時や日頃の防災について、地域活動として、どのような取り組みができるかを中心に議論しました。

昨年の救命救護法講習に続いて実施した安全についての講演と討議によって、YMCAボランティアの資質向上を図る機会となりました。（船戸輝久（ふなとてるひさ）・大阪YMCA学院スタッフ）

第33回YMCA H．H．キャンプ（聴覚障がい青少年国際キャンプ）

参加者募集

YMCAのH．H．（Hard of Hearing）キャンプは聴覚障がいのある青少年のためのキャンプです。今年はマレーシアにて開催されます。

目　的
様々な「生活文化」や「言葉」の中で暮らす各国の青少年との活動を通して、
・異文化交流と友だちづくりの機会を広げます。
・自尊心と自信を育み、より豊かな生活、人生を歩む機会とします。

内　容
・グループに分かれての各種キャンプワークやゲーム
・交流会
・海に囲まれたキャンプ場でのウォーターフロント活動
・ハンドクラフトやスポーツ大会、出し物発表会など各国の文化体験
・ペナン観光

期　間
7月31日（金）～8月8日（土）＜8泊9日＞

訪問地　マレーシア・ペナン

対　象　聴覚障がいのある16歳～35歳

参加費　140，000円
（申込金 28，000円含む）

費用に含まれるもの
プログラム中の宿泊費・食費・交通費・プログラム費・保険代・団体行動中の諸経費・臨時登録費（2，000円）。ただし、個人的費用（旅券費用、事前準備研修会時交通費、空港往復交通費等）は含まない。

※このプログラムは大阪YMCA国際協力基金によって支援されています。

企画・主催　大阪YMCA
協　力　大阪ワイズメンズクラブ

事務局／問合せ　大阪YMCA　統括本部
担当：立山（たてやま）
TEL　06（6441）0894
FAX　06（6445）0297
E-mail　info@osakaymca.or.jp